

創世記6-7章「世の罪に対する信仰の勝利」

1A 恵みに見出されたノア 6

1B 悪の増大 1-8

1C 神の子による子孫 1-4

2C 主の悔やみ 5-8

2B 箱舟の建造 9-22

1C 全き人ノア 9-12

2C 箱舟の構造 13-16

3C ノアとの契約 17-22

2A 大洪水 7

1B 箱舟への乗船 1-16

1C 七日前の警告 1-5

2C あらゆる動物 6-10

3C その日に入る家族 11-16

2B 水の中で救われたノア 17-24

1C すべてをおおう水 17-20

2C 消し去られた生きもの 21-24

本文

創世記6章を開いてください。私たちは有名な、ノアの箱舟の話に入ります。けれども、私たちに、聖書通読をしている利点があります。あの有名な大洪水の話は、どんな意味があるのか？それは、カインがアベルを殺したという、暴虐の種があって、それがついに全世界に広まってしまって、全く墮落してしまったということです。しかし、セツの子孫は、主の名を呼び始めました。その子孫には、エノクがおり、神と共に歩んで、死なないで天に引き上げられました。そして、ノアが出てきて、彼が主の恵みに見出されるのです。そこで突出しているのは、彼の信仰です。全く、信じられないようなことについて、彼は神を信じて、行動に移しました。

1A 恵みに見出されたノア 6

1B 悪の増大 1-8

1C 神の子による子孫 1-4

¹さて、人が大地の面に増え始め、娘たちが彼らに生まれたとき、²神の子らは、人の娘たちが美しいのを見て、それぞれ自分が選んだ者を妻とした。

大地の面とありますが、ここには、主が、「よし」と宣言された、あの大地の面のことが思い出され

ています。主が、大地の面に、多くの生き物を造られて、そこで生めよ、増えよと言われて、さらに、ご自分のかたちに人を造られました。しかし、アダムが罪を犯して、エデンの園から追放されました。その土地は呪われたものとなりました。その子カインが、弟アベルを殺して、土地はアベルの「口を開けてあなたの手から弟の血を受けた(4:11)」と言われています。そして、今、その大地の面は、とんでもないことになっています。

それは、「神の子ら」が、人の娘らが美しいのを見て、妻にしていることです。この、「美しいのを見て」というのは、まさに目の欲、肉の欲であり、いわゆる妻にするというのは、強制的なもので、自分の欲望を満たすはけ口のようなものです。

そして、この「神の子ら」というのは、神の御使いのことです。ほかの解釈で、セツの子孫というのがありますが、旧約聖書で「神の子ら」と言ったら、神の御使いのことを指しています。「ヨブ 1:6 ある日、神の子らがやって来て、【主】の前に立った。サタンもやって来て、彼らの中にいた。」「38:7 明けの星々がともに喜び歌い、神の子たちがみな喜び叫んだときに。」

そして何よりも、新約聖書で、ペテロが第二の手紙、そしてユダも手紙で、これらが墮落した御使いであることを書いていることです。「Ⅱ ペテ 2:4-5 神は、罪を犯した御使いたちを放置せず、地獄に投げ入れ、暗闇の縄目につないで、さばきの日まで閉じ込められました。5 また、かつての世界を放置せず、不敬虔な者たちの世界に洪水をもたらし、義を宣べ伝えたノアたち八人を保護されました。」ペテロは、創世記 6 章の話をそのまま持ち出しているのです。これら、人の娘たちを妻とした御使いたちが、地獄でも最も暗闇のところに閉じ込められていると言っています。

そしてユダの手紙では、こうあります。「ユダ 6-7 またイエスは、自分の領分を守らずに自分のいるべき所を捨てた御使いたちを、大いなる日のさばきのために、永遠の鎖につないで暗闇の下に閉じ込められました。7 その御使いたちと同じように、ソドムやゴモラ、および周辺の町々も、淫行にふけて不自然な肉欲を追い求めたため、永遠の火の刑罰を受けて見せしめにされています。」ここで、「その御使いたちと同じように」といって、不自然な肉欲を追い求めたソドムへの裁きを語っていて、御使いたちが不自然な肉欲を求めたということが書かれているのです。

これは、実に異様に見えます。けれども、聖書には、御使いが人として現れている場面が数多く出てきます。アブラハムの天幕に三人の人がやってきて、食事のもてなしを受けました。そして、その二人がロトの家に行きましたが、ソドムの男たちはその二人を強姦しようとしたのです。つまり、彼らはハンサムだった可能性が大なのです。ヘブル書には、旅人もてなさいという勧めで、アブラハムが御使いをもてなしたことを書いています。確かに、御使いは、神に仕える霊であって、天において、めとったりはしないとイエスはサドカイ派の者たちに言われました。しかし、地上においては人として現れていることがあり、ここでも、人のかたちをして現れて、人の娘たちに肉欲を燃

やしたのです。

これはおぞましいことですが、私たちは聖書通読をしているので、話の大まかな流れで察しがつきます。それは、主が祝福して、生めよ、増えよと言われ、そしてアダムが罪を犯した後に、「女の子孫が、蛇の子孫のかしらを打つ」という約束を与えられています。「3:15 わたしは敵意を、おまえと女の間、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」子孫の中に祝福があり、また、悪魔の脳天を打ち砕く救いがあるのです。

その壮絶な、熾烈な戦いにおいて、悪魔とその使いどもは、人の子孫を台無しにしようとしているのです。イスラム過激派が、しばしば異教徒の女性を凌辱しますが、そこには単に自分の肉欲を満たすということだけではなく、そこから出てくる子を汚すという意味合いがあります。ロシア兵がウクライナ人女性を凌辱したのにも、そういった意味もあると言われています。そのような戦いを、墮落した天使どもが行ったのです。

³ そこで、主は言われた。「わたしの霊は、人のうちに永久にとどまることはない。人は肉にすぎないからだ。だから、人の齢は百二十年にしよう。」

午前礼拝でお話したように、これは、寿命というよりも、これから 120 年しか生きられないという意味ではないかと思われます。この 120 年後に、大洪水が起こって、地上にいる肉なる者はみな消え去るということです。そして、神の霊が「とどまる」という言葉は、単に住むという意味ではなく、裁判の中で争うような意味合いになっています。ですから、心に葛藤を覚えさせるという意味合いです。神の霊が、引き止めているのです。けれども、そのような御霊による呼びかけも、いつまでも続くわけではなく、終わりが来るのだよという警告であります。

⁴ 神の子らが人の娘たちのところに入り、彼らに子ができたそのころ、またその後も、ネフィリムが地にいた。彼らは昔からの勇士であり、名のある者たちであった。

ネフィリムというのは、巨人という意味です。神と人との間にできた、超人的な者たちであります。彼らが、「昔からの勇士であり、名のある者たち」とありますが、これは神に対して反抗する力ある者たちという意味合いがあります。当時のカナン人の信仰には、神と人との間に子を残すために、神の祭司たちと娘たちの性行為が祭儀となっていて、そこから生まれた子たちは超人的なものとされていました。ローマやギリシアの神話にもそういったものがあります。あの有名なアキレスが、そうですね。しかし、主は、「肉にしかすぎない」と断じておられます。そして、大洪水によって滅ぼすことをお決めになったのです。

後に、民数記で、イスラエルの民が 12 人にカナンの地を偵察させた時、戻ってきたうち 10 人が、

「13:33 私たちは、そこでネフィリムを、ネフィリムの末裔アナク人を見た。私たちの目には自分たちがバツタのように見えたし、彼らの目にもそう見えただろう。」と言いました。これは、彼らがカナン人に残っている神話を鵜呑みにしているだけで、実際のネフィリム人たちは死んでいるのです。ただ、確かに、その地に異常な身丈の者たちがいたことは確かで、神に敵対している者たちが現れますね。アナク人がそうですし、また、ゴリヤテを始めペリシテ人にもいました。しかし、そういった者たちも、主の戦いでは徹底的に負けているのです。ただの人なのです。

2C 主の悔やみ 5-8

⁵主は、地上に人の悪が増大し、その心に図ることがみな、いつも悪に傾くのをご覧になった。

霊の世界においても墮落と暴虐が起こりましたが、大地の面では、人自体にも悪が増大しました。福音書の舞台もそうでした。そこは悪霊どもが動いていて、人にも悪が増大し、異教徒のローマ人による虐げのみならず、神を求めているはずの民の指導者たちも腐敗していました。その中にキリストが来られたのです。私たちの時代にも、人の墮落があり、そして悪霊どもの反抗があります。

⁶それで主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。⁷そして主は言われた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜や這うもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これらを造ったことを悔やむ。」

「悔やむ」と訳されている言葉に、主の思いが強く表れています。すべてが良かったと言われた神は、その被造物が、特にご自分のかたちに造られた人がこうなってしまったのを見て、悔いておられます。思い出してください、人は神のかたちに造られていますから、そこに自由意志があるのです。主はロボットのように人を造られていません。だからこそ、神ご自身でさえ、彼らの自由意志に違反することはできないのです。それが、ここにある「悔やむ」にある意味合いです。そして残念に思われているのです。

それで、人を地の面から消し去ることを決められました。そして、人に対して、主は地上の生き物、また空の鳥も含めて支配するように言われていました。ですから、これらの生き物も共に消し去ることをお決めになったのです。

⁸しかし、ノアは主の心になっていた。

この接続詞「しかし」が大事です。再び、「しかし」が出てきます。主は、滅ぼすことにお決めになっていますが、しかし、すべてを滅ぼすのではないのです。ここに神の正しさと共に、憐れみがあるのです。この言葉、「主の心になっていた」は、直訳では、「主の目に恵みを見出した」であります。ノアは、自分の行いの前に、主の恵みを受けていました。これから、ノアが正しい人であると

書かれています、これが、神とキリストを信じる者たちへのモデル、模範となっています。「ロマ 3:24 神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。」

私たちキリスト者は、正しく生きようします。しかし、正しく生きようとする時に必ず思い出していただきたいのは、「主の目に恵みを見出した」ということなのです。自分が神にとって、一方的に好意を寄せられています。自分がどんなであろうと、神がただ愛して、よく見てくださっているのです。これが恵みです。その恵みにあって成長して、自分がなくなり、キリストが自分を通して生きてくださり、それで正しい行いをするのです。恵みによって成長し、恵みによって強められます。

2B 箱舟の建造 9-22

1C 全き人ノア 9-12

⁹ これはノアの歴史である。ノアは正しい人で、彼の世代の中にあって全き人であった。ノアは神とともに歩んだ。¹⁰ ノアは三人の息子、セム、ハム、ヤフェテを生んだ。

創世記が、「経緯」とか「歴史」という記述で新たな区切りをつけていますね。前回は、5章1節、「これはアダムの歴史の記録である」とありました。ここはノアの歴史です。

今、お話ししましたように、ノアは正しい人でしたが、それは神の恵みに見出されたからです。これからじっくり見ていきますが、その正しさは、彼の全き神への信頼から来ています。そして、「**世代の中にあって全き人**」とありますが、これは、暴虐の種がなく、義と平和の種によって生まれているという意味合いがあるでしょう。カインではなくセツの子孫であり、神の子らが人の娘らによって出てきたネフィリム人のような種の汚染もなく、全き人であるということです。

それから、聖書では「全き人」の意味合いが、私たちの考える完璧とは違います。日本語ですと、「全うの人生を歩んだ」みたいな意味合いが強いです。今の日本人はとにかく、減点方式で完全を考えます。いわゆる、落ち度や欠点のない完璧さです。100点を全て取る人です。けれども、聖書の完全とは、全体的に見て、主に頼り切って生きていったという意味合いです。ダビデの生涯がそうでしたね、彼はとんでもない罪を犯しましたが、その罪を犯した後で出てきた結果にあっても、そこで主に投げ頼んでいく姿勢を見せました。

そして、「**ノアは神とともに歩んだ**」とあります。エノクも神と共に歩んでいました。歩みというのは、生活の日ごろからということです。生活のあらゆる面で、主を自分の前に置き、主を認めている生活です。ノアの場合は、彼と家族以外は今、神に反抗していましたから、その心理的圧迫といったら、とんでもないものだったでしょう。しかし、彼はそれでも神を信頼し、神とともに歩んだのです。

それから、三人の息子が紹介されています。セム、ハム、ヤフェテです。彼らは何度となくこれか

ら、できます。モーセは、この三人の息子からすべての民が出てくることを強調したいのでしょう。

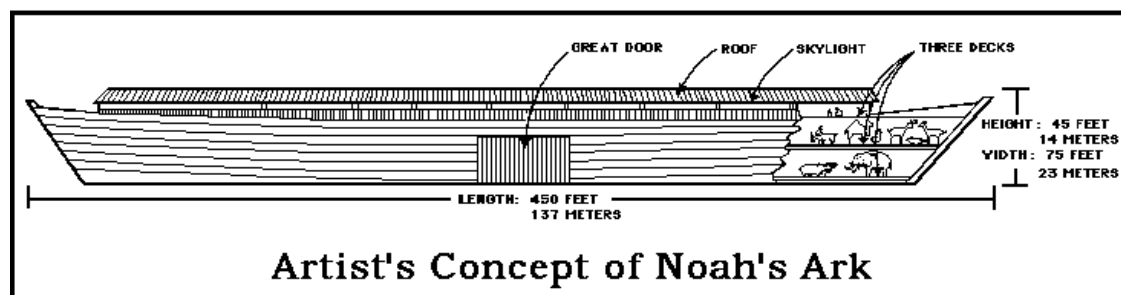
¹¹ 地は神の前に墮落し、地は暴虐で満ちていた。¹² 神が地をご覧になると、見よ、それは墮落していた。すべての肉なるものが、地上で自分の道を乱していたからである。

これは、創世記 1 章の最後に出てくるものと比べると、対照的です。「1:31a 神はご自分が造ったすべてのものを見られた。見よ、それは非常に良かった。」今は、地は墮落し、暴虐に満ちています。そして、自分の道を乱していました。今の時代を主がご覧になって、その傾向がますます強くなっている中で、まず私たちが、暴虐ではなく正義と平和の道を歩んでいるか、吟味する必要があります。次に、主がいつまでも忍耐しているわけではない、裁きの日が近づいているということを思っている必要があります。

2C 箱舟の構造 13-16

¹³ 神はノアに仰せられた。「すべての肉なるものの終わりが、わたしの前に来ようとしている。地は、彼らのゆえに、暴虐で満ちているからだ。見よ、わたしは彼らを地とともに滅ぼし去る。¹⁴ あなたは自分のために、ゴフェルの木で箱舟を造りなさい。箱舟に部屋を作り、内と外にタールを塗りなさい。¹⁵ それを次のようにして造りなさい。箱舟の長さは三百キュビト。幅は五十キュビト。高さは三十キュビト。¹⁶ 箱舟に天窓を作り、上部から一キュビト以内に天窓を仕上げなさい。また、箱舟の戸口をその側面に設け、箱舟を一階と二階と三階に分けなさい。

主はすべてのものを滅ぼすけれども、「自分のために」箱舟を造りなさいと命じておられます。子の箱舟によって、滅びから救われるからです。



日本語の訳「箱舟」は、とても良いと思います。これは、エジプトの言葉から借りてきた言葉で、「船」というよりも「箱」です。モーセが、自分自身が赤ん坊の時にナイル川で、タールを付けたかごに入れられましたが、そのかごと似た言葉のようです。モーセは、自分自身がファラオの怒りから救われるために、その水から守られたことを思ってこの言葉を使ったことでしょう。

¹ Ross, A. P. (1985). Genesis. In J. F. Walvoord & R. B. Zuck (Eds.), The Bible Knowledge Commentary: An Exposition of the Scriptures (Vol. 1, p. 38). Victor Books.

寸法を見ればいわゆる船ではありません。長さはメートルに直しますと約 132 メートル、幅が 22 メートル、高さは 13 メートルです。この形はどこかの目的地に向かって航行するのは非常に不都合ですが、転覆しないことについては最善だそうです。船舶の専門家の方がこの箇所を読んで信仰を持つに至ったという証しを、聞いたことがあります。この寸法が最も転覆しないものだったということです。

そして、「内と外にタールを塗りなさい」と命じておられます。この「タール」は、別の箇所では、贖いとか、贖罪、また宥めとか訳されているところです。聖書に初めて出てくる言葉が、どのように使われているかを知るのはとても大切ですが、罪の赦しを示すこの言葉が、水の裁きから守られるためのタールであるということです。

使徒ペテロは、第一の手紙で、ノアの箱舟は水のバプテスマを示していることを教えました。「3:20b-21 その箱舟に入ったわずかの人たち、すなわち八人は、水を通して救われました。21 この水はまた、今あなたがたをイエス・キリストの復活を通して救うバプテスマの型なのです。バプテスマは肉の汚れを取り除くものではありません。それはむしろ、健全な良心が神に対して行う誓約です。」箱舟は、キリストご自身のことを示しています。私たちは、キリストの流された血によって罪赦されたのですが、そのキリストのうちにいることによって、神の裁きから救われるのです。私たちはしばしば、自分自身に注目しすぎなのですが、自分自身はすっぽり、キリストのうちにいるのだということを忘れてしまうのです。しかし、もう自分はキリストの内に隠されていて、その流された血によって、ちょうどタールが水の侵入を防ぐように、神のさばきから守られているのです。

3C ノアとの契約 17-22

¹⁷ わたしは、今、いのちの息のあるすべての肉なるものを天の下から滅ぼし去るために、地上に大水を、大洪水をもたらそうとしている。地上のすべてのものは死に絶える。¹⁸ しかし、わたしはあなたと契約を結ぶ。あなたは、息子たち、妻、それに息子たちの妻とともに箱舟に入りなさい。

再び「しかし」が出てきました。主は、地上に大洪水をもたらします。すべてのものは死に絶えます。「しかし」となるのです。ですから、あなたがたは死から免れるということです。そのために、「契約」を結ばれます。聖書に初めて出てくる「契約」の言葉です。内容は 9 章に出てきます。主が、必ずノアとその家族に対して守られる契約です。私たちに身近なのが、最も近い形は結婚の誓約です。英語ですと、covenant と contract という言葉があり、contract は便宜上の決め事の意味合いが強いです。会社や不動産さんとかでは contract が使われますね。しかし、誓約においては covenant です。それは、神の前で絶対に変えられない決め事です。

¹⁹ また、すべての生き物、すべての肉なるものの中から、それぞれ二匹ずつを箱舟に連れて入り、あなたとともに生き残るようにしなさい。それらは雄と雌でなければならない。²⁰ 鳥は種類ごとに、

動物も種類ごとに、また地面を這うすべてのものも種類ごとに、それぞれ二匹ずつが生き残れるよう、あなたのところに来なければならない。²¹ あなたは、食べられるあらゆるものから採って、自分のところに集め、あなたとそれらの動物のための食物としない。」

主は、ノアとその家族を救われます。息子三人と、自分の妻、そして息子の妻たちです。それから、彼らが、かつてアダムに対して、生きものを支配しなさいと命じられたように、ノアとその家族に対して、生き物が支配されるためです。そして、自分たちのためと、動物のための食物も採ってくださいと命じておられます。

²² ノアは、すべて神が命じられたとおりにし、そのように行った。

この一言が、ものすごいことです。これから後にも出てきます。ここに、ノアがどうして正しい人であったかが分かります。神を信じ切っていたので、それで言われたことを守り行ったのです。

創世記 2 章 6 節によると、水は地下水が出ていただけで雨が降っていませんでした。ですから、洪水どころか、雨が降るのを見たことがなかった可能性があります。それなのに、それなのに全地を覆う大洪水を起さることを彼は信じたのです。「ヘブル 11:7 信仰によって、ノアはまだ見ていない事柄について神から警告を受けたときに、恐れかしこんで家族の救いのために箱舟を造り、その信仰によって世を罪ありとし、信仰による義を受け継ぐ者となりました。」

これが、私たちが見倣っていくことです。世がどんなことを言っていようが、世がどんなことを行っていようが、主が言われたのだからということだけで、私たちは行っていくのです。それが信仰であり、神はその信仰を義と認めてくださいます。

2A 大洪水 7

1B 箱舟への乗船 1－16

1C 七日前の警告 1－5

¹ 主はノアに言われた。「あなたとあなたの全家は、箱舟に入りなさい。この世代の中にあって、あなたがわたしの前に正しいことが分かったからである。」

6 章と 7 章には、約百年間の空白期間があります。ノアが息子を生んだのは五百歳で、箱舟に入るのは六百歳の時だったからです。箱舟を造り始めることもすごい信仰ですが、それを百年間も行なっていることは、もっとすごい信仰です。「この世代の中にあって、あなたがわたしの前に正しいことが分かったから」という言葉は、「ずっと見てきた」という神の経験と確認の言葉です。

ちなみに彼は、箱舟を造りながら説教も行なっていました。ペテロ第二 2 章 5 節に、「また、かつ

ての世界を放置せず、不敬虔な者たちの世界に洪水をもたらし、義を宣べ伝えたノアたち八人を保護されました。」とあります。結局、彼が神の義を説教したことによって救うことのできた魂は、ただ一人もいません！忍耐して最後まで信じることの大切さをここで教えられます。

² あなたは、すべてのきよい動物の中から雄と雌を七つがいつ、きよくない動物の中から雄と雌を一つがいつ、³ また空の鳥の中からも雄と雌を七つがいつ取りなさい。それらの種類が全地の面で生き残るためである。

「きよい動物」と「きよくない動物」というのは、後に神がモーセに対して律法として与えられる区別です。レビ記 11 章にあります。他の動物は一つがいつなのに、なぜここでは七つがいつなのかといいますと、その理由の一つが、いけにえを献げるためです。ノアは洪水が引いた後に箱舟から出てきた後に初めにしたことは、全焼のいけにえを献げることでした。まだ子が生まれないうちにいけにえにするのですから、余計にいないといけません。

⁴ あと七日たつと、わたしは、地の上に四十日四十夜、雨を降らせ、わたしが造ったすべての生けるものを大地の面から消し去る。」⁵ ノアは、すべて主が彼に命じられたとおりにした。

七日の猶予の期間です。その間に、これらの動物を用意します。そして、七日後、雨が降る直前に、全家族が入ります。これらをすべて、ノアは行いました。箱舟を造るのにも信仰が必要ですが、入るのにも信仰が必要です。入ってから、何も起こらなかつたら、面目丸つぶれであり、あざ笑いの対象となるでしょう。ややもすると、殺されるかもしれません。けれども、ノアは信じたのです。

2C あらゆる動物 6-10

⁶ ノアは六百歳であったが、そのときに大洪水が起こり、大水は地の上にあった。⁷ ノアは息子たちや自分の妻、それに息子たちの妻とともに、大洪水の大水を避けるために箱舟に入った。⁸ きよい動物、きよくない動物、鳥、地面を這うすべてのもののの中から、⁹ 雄と雌がいつがいつになって箱舟の中のノアのところにやって来た。神がノアに命じられたとおりであった。¹⁰ 七日たつと、大洪水の大水が地の上に生じた。

主が語られた、雨が降り始める前の七日の間に、地上から雄雌二匹ずつの動物がやって来ました。私たちは、これがおとぎ話ではないことは、あまりにも知られています。動物は大きな災害がある前に、予知して行動に移しています。ここでは地球の全面を覆う大洪水ですから、なおさらのこと、動物たちが箱舟のところに来るのは容易に想像できます。

3C その日に入る家族 11-16

¹¹ ノアの生涯の六百年目の第二の月の十七日、その日に、大いなる淵の源がことごとく裂け、天

の水門が開かれた。

モーセは、「**第二の月の十七日**」と、正確な期日を書き記しています。これは神話でも比喻でもなく、歴史的事実だったことを伝えるためです。

そして、水源は二つありました。「**大いなる淵の源**」と「**天の水門**」です。前者は地下水です。創世記 2 章 6 節に「**豊かな水が地から湧き上がり**」とありますが、これは地下水と訳すことができます。そして後者は天にあった水のことで、1 章 7 節によると、当時は水の層が天にありました。それが一気ににはじけました。

そして四十日四十夜、雨が降っています。モーセはこれを書いている時、自分自身の人生を思い出していたかもしれません。彼が 40 歳の時、エジプトから逃げミディアンで羊飼いとなりました。そして 80 歳の時、エジプトに戻りイスラエルをエジプトから連れ出しました。そして 120 歳のとき、約束の地の東まで来て、創世記から申命記までの神の言葉を書き記しています。聖書には「**四十**」という数字が数多く出てきますが、それは「**神の裁き**」や「**試み**」を示すことが多いです。

¹²大雨は四十日四十夜、地に降り続いた。¹³ちょうどその日に、ノアは、息子たちのセム、ハム、ヤフェテ、またノアの妻と、息子たちの三人の妻とともに、箱舟に入った。¹⁴彼らとともに、種類ごとにあらゆる獣、種類ごとにあらゆる家畜、種類ごとにあらゆる地の上を這うものと、種類ごとにあらゆる飛ぶもの、鳥や翼のあるものすべてが箱舟に入った。¹⁵こうして、いのちの息のあるすべての肉なるものが、二匹ずつノアのいる箱舟の中に入った。

「**ちょうどその日**」と、モーセは強調しています。七日の間に、動物たちが集まってきて、そして雨が降る直前に、ノアの家族が入って、それから動物たちが入りました。ここで大事なことは、主がそこまで他の人々に救いの手を差し伸べていたし、また、裁きというのが突如として起こるということの、どちらも示しているということです。

イエスも、ご自身が来られる時はそのようであると言われました。「マタ 24:37-39 人の子の到来はノアの日と同じように実現するのです。³⁸洪水前の日々にはノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていました。³⁹洪水が来て、すべての人をさらってしまうまで、彼らには分かりませんでした。人の子の到来もそのように実現するのです。」人々は、どんなに悪い兆候が起こっても、日常生活は歩んでいるものです。あるいは、そうやって正常バイアスと言いますか、差し迫る危機に敢えて目をつむっています。それが、今の時代です。眠っているのです。しかし、滅びは突如として来るのです。

そして、主は、ある者は残されて、ある者は取り去られると語り始めます。主が来られる時、一

瞬にして信じる者たちは引き上げられます。これは、携挙の出来事を思えばよくわかることです。ある者たちは天に引き上げられますが、他の人が残されて大患難の中で滅びます。主は、全く同じように生活していても、救う者とそうでない者を区別しておられるということです。

¹⁶ 入ったものは、すべての肉なるものの雄と雌であった。それらは、神がノアに命じられたとおりに入った。それから、主は彼のうしろの戸を閉ざされた。

主が、戸を閉ざされました。これはノアとその家族が洪水から救われるためであり、と同時に、不信者に対する最終的な裁きのしるしであります。神は最後の最後まで、他の人たちもこの箱舟に入ってきて良いように、戸口を開いておられたのです。けれども、その最後の機会さえないがしろにするなら、もう残されているのは恐ろしい裁きしかないのです。あの愚かの娘たちがそうでした。戸を開けるようお願いしても、許してもらえませんでした。先ほど読んだヘブル 11 章 7 節にも、「その信仰によって世を罪ありとし、信仰による義を受け継ぐ者となりました」とありました。信仰によって、世を罪ありとしたのです。

2B 水の中で救われたノア 17－24

1C すべてをおおう水 17－20

¹⁷ 大洪水は四十日間、地の上にあった。水かさが増して箱舟を押し上げたので、それは地から浮き上がった。¹⁸ 水がみなぎり、地の上に大いに増し、箱舟は水面を漂った。¹⁹ 水は地の上にますますみなぎり、天の下にある高い山々もすべてをおわれた。²⁰ 水は、その上さらに十五キュビト増し加わり、山々はおおわれた。

はっきりと世界で最も高い山も水に覆われたことを述べています。一キュビトは肘から人差し指までの長さで約 44 センチですから、十五キュビトは 6.6 呎です。聖書批評家らは、「ノアの時代の洪水は確かにあったが、地域的なものであった」という意見があります。けれども、ここの記述を読めば、全世界に及んだものであることは明らかなです。もし地域的なものであったら、後に主が契約をノアに結ばれる中で、「すべての肉なるものを滅ぼす大洪水となることはない」との約束があります(9:15)。これまでは地域的な洪水はあったのですから、約束を守らなかったことになります。

かつて全世界的な洪水が起こったことを示す証拠は数多くあります。一つは、エベレスト山の頂上付近に魚の化石が見つかったことです。もう一つは、世界中の二百以上の文化に洪水の神話があることです。その 88%は、救われた家族について書き記しています。70%は、舟による救いを語っています。66%が人間の罪惡が原因であったことを記しています。67%は動物も救われたことを書いています。そして 57%は箱舟が山の頂上にとどまったことを書いています。そして多くの神話が、鳥が放たれたこと、虹のこと、そして八人が救われたことに言及しているのです。

私たちの知っている「船」という漢字もその証拠です。部首の「舟」に旁が「八」に「口」ですね。中国語では家族の人数を数えるとき「口」を使います。つまり、「舟に家族八人が入っていた」という意味になっているのです。ノアとその妻、息子三人とそれぞれの妻の八人が舟に入っていたという記録を「船」という漢字が残しています。

2C 消し去られた生きもの 21-24

²¹ こうして、地の上を動き回るすべての肉なるものは、鳥も家畜も獣も地に群がるすべてのものも、またすべての人も死に絶えた。²² いのちの息を吹き込まれたもので、乾いた地の上にいたものは、みな死んだ。²³ こうして、主は地の上の生けるものすべてを、人をはじめ、動物、這うもの、空の鳥に至るまで消し去られた。それらは地から消し去られ、ただノアと、彼とともに箱舟にいたものたちだけが残った。

何度となく、すべてが死んだとモーセは強調していますね。ところで、ここで水の生き物は入っていません。あくまでも、人に任されていた、地の上の生き物、そして空の鳥が滅びます。

²⁴ 水は百五十日間、地の上に増し続けた。

雨が降り始めて、それから百五十日です。ですから、雨が止んでからは、百十日です。五カ月弱、雨が止んだ後も増し加わっていきました。

こうして、私たちは、今、生きている世界が、ノア後の世界だということを思い出す必要があります。ペテロが、そうしなさいと言っているんですね。長くなりますが、第二ペテロ 3 章前半部分を読んでみたいと思います。

¹ 愛する者たち、私はすでに二通目となる手紙を、あなたがたに書いています。これらの手紙により、私はあなたがたの記憶を呼び覚まして、純真な心を奮い立たせたいのです。² それは、聖なる預言者たちにより前もって語られたみことばと、あなたがたの使徒たちにより伝えられた、主であり救い主である方の命令を思い出させるためです。

この命令とは、1 章 4 節にあるものです。「その栄光と栄誉を通して、尊く大いなる約束が私たちに与えられています。それは、その約束によってあなたがたが、欲望がもたらすこの世の腐敗を免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。」

³ まず第一に、心得ておきなさい。終わりの時に、嘲る者たちが現れて嘲り、自分たちの欲望に従いながら、⁴ こう言います。「彼の来臨の約束はどこにあるのか。父たちが眠りについた後も、すべてが創造のはじめからのままではないか。」⁵ こう主張する彼らは、次のことを見落としています。

天は大昔からあり、地は神のことばによって、水から出て、水を通して成ったのであり、⁶ そのみことばのゆえに、当時の世界は水におおわれて滅びました。⁷しかし、今ある天と地は、同じみことばによって、火で焼かれるために取っておかれ、不敬虔な者たちのさばきと滅びの日まで保たれているのです。

何も起こっていない、のではないのです。神のことばによって、水のさばきを受けた後の世界に私たちは生きています。次は、同じことばによって、火によって焼かれるのだということです。そして、その後の新しい天と新しい地に入るのですが、そこは、「義の宿っている(13 節)」ところであると言っています。そして、「3:14 ですから、愛する者たち。これらのことを待ち望んでいるのなら、しみも傷もない者として平安のうちに神に見出していただけるように努力しなさい。」

ノアの信仰と、世に対する罪定めは、キリストによる世のさばきと、そこから免れるキリストへの信仰の対比であります。